

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

令和5年度

法人名	社会福祉法人 正清会	代表者	三好 正規	法人・ 事業所 の特徴	同じ場所で顔馴染みの利用者と職員同士が、通いを中心に訪問や宿泊といった支援により、継続的に関わる中でひとり一人に寄り添い、気持ちに向き合い暮らしの中に楽しみが見出せるよう支援いたします。 介護する者、介護される者の関係ではなく、「共に生きる」事を目指します。
事業所名	多機能ホーム 遠波の里白松苑	管理者	村田 妙雪		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	4	5	人	1人	1人	人	2	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	コロナウイルス感染症の影響を受け、3年振りの開催 3年前の改善点をそのまま記入	コロナの影響を受け、利用者との外出やボランティア、地域行事にも参加していない		基本的な感染対策をおこないながら少しずつ外出支援を行って行きたい
B. 事業所のしつらえ・環境	地域関りシートの内容の見直し	内容が分かりにくかった	B-4は、日中と夜間と2種類に分けて書いてみてはどうか、夜間は、防犯の為、鍵を掛けている事は、分かります	もう一度、見直しをする
C. 事業所と地域のかかわり	職員も地域のイベントや行事に参加し地域との交流の機会をもつ	行事やイベントに、ほぼ参加出来なかった。公園や散歩を行う	コロナから、外出も少なくなり、外からは何をされているのか、分かりづらくなった。日中、営業しているのか分からない	職員も地域のイベントや行事に参加し地域との交流の機会をもつ
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	基本的な感染防止をし、地域との交流の機会をもつ	散歩やお花を見に行く 職員は、文化祭の打合せのみ参加	看板を大きくしたり、買い物やお寺周りなど、バスを利用して宣伝したり、アピールが必要なのでは。外に出る機会が増えれば何をしているか活動している事が見える	基本的な感染防止をし、ボランティアの受け入れや外出支援、地域との交流の機会をもつ
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を再開し、地域の方と交流し情報交換や意見を頂く	コロナ開け、今回が3回目	事業所の取組みが分かりやすく説明されている	運営推進会議を再開し、地域の方と交流し情報交換や意見を頂く
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加する 防災訓練を実施し意識を高める	施設の防災計画を知ってもらう機会がない。 以前、参加したが地域の防災訓練に参加していない	施設の方は、施設の中で避難しているという考え方で出来るのでは、自宅の中で避難するという、自宅避難と一緒に考え方で良い	地域の防災訓練に参加する 防災訓練を実施し意識を高める